

特集
エコプロダクツ大賞
概要

第13回エコプロダクツ大賞を終えて
上野川 智子 KAMIYOKAWA Tomoko
エコプロダクツ大賞実行委員会事務局 (一財)日本EHS人材開発フォーラム理事・事務局長

第13回エコプロダクツ大賞を終えて

今年も環境負荷低減に配慮した製品・サービスを表彰する第13回エコプロダクツ大賞が、三段階の選考・審査を経て決定し、2016年12月8日「エコプロ2016」の会場内で表彰式が行われた。

受賞者は、エコプロダクツ大賞のロゴマークを使用してプレスリリースを行い、表彰式後はエコプロダクツ展会場内に賞状や副賞をいち早く展示するなど、「エコプロダクツ大賞」を活用して、自社の取り組みを広くPRしていた。

写真1／表彰式の様子

各賞あわせて17件が受賞

「第13回エコプロダクツ大賞」(主催:エコプロダクツ大賞実行委員会)の審査結果が2016年11月8日に発表され、各賞あわせて17件のエコプロダクツが表彰されることが決まりました。その後12月8日には、「持続可能な社会の実現に向け」をテーマに東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2016」の会場内のイベントステージにおいて表彰式が開催されました。共創応募を含めた21社の代表の方々に賞状の授与を行なった。

エコプロダクツ大賞は、環境負荷の低減に配慮した優れた製品・サービスを表彰することによって、エコプロダクツの開発・普及を推進することに、需要者サイドにもそれに関する情報を広く伝えることを目的として2004年から始まりました。エコプロダクツに開かれた深い責任感、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の6省が後援、選考に開かれたユニークな表彰制度である。今回も農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞の四つの大賞が選ばれ、ご出席いただいた藤井北早之助国土交通大臣政務官、比嘉允津美環境大臣政務官からは賞状、副賞の授与とともに祝辞を頂戴した。

応募枠組み変更

前回からは、審査過程において最初から「製品・サービス」部門によって評価することをせず、「エコプロダクツ」という大きな括りで審査、評価することとしている。以前は、製品としての評価とサービスとしての評価、ど

ちらで評価すべきか決めかねる案件もあったが、「エコプロダクツ」とすることで、いずれの点も合わせて評価できることから、評価ポイントに広がりが出てきている。

大臣賞として4件を表彰

審査は、所掌業務の観点からある程度の区分を行なった後、後各県における予選選考を経て、エコプロダクツ大賞推進協議会内に設けられた審査委員会(審査委員長:石谷久(東京大学名誉教授))において10月18日に最終審査が行われた。受賞した案件の件名と詳細は、次項の「わが社の『エコプロダクツ』」を参照してほしい。

このうち、最もすぐれたエコプロダクツに贈られる「後

援各大臣賞」(大賞)には、農林水産大臣賞、経済産

業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞の4賞が選ばれ

ばれた。

大賞に次いですぐれたエコプロダクツに贈られる「エコプロダクツ大賞推進協議会長賞」(優秀賞)には、8件が、中小企業からの応募案件を対象とした「審査委員長特別賞」(奨励賞)には5件が選ばれた。

今回、農林水産大臣賞を受賞したのは、味の素と味

の素アーマル、ニュートリショングループの2社共同応募

である剤料用アミノ酸「ジン」。アミノ酸バランスが悪

い剤料はうまく家畜体内に吸収されず、酢酸化窒素

(NO)として排出される。NOは、CO₂よりも約300倍も

温室効果が高い。つまり、剤料中のアミノ酸バランスが

悪いと地球温暖化の一因となる。避けには通れない家畜

の排せつ物だが、そこからの温室効果削減に寄与

することは、重要でありながらなかなか一般消費者は

気づかない取り組みだ。

経済産業大臣賞を受賞したのは、JFEスチールの世界最高強度の車両用冷間プレス部品を実現した「1.5ギガパスカル級冷延鋼板」である。鋼板が薄くなることで、鋼材自体の削減になるとともに、軽量化によって自動車走行時の燃費が削減される。薄く強度が高いために、鋼板が薄くなることで、鋼材自体の削減」としての評価を得た。

止にならった団体も多い。個人と貨物が同乗することで、トラック輸送によるCO₂排出削減につながる。バス会社や自治体、宅配業者、そして地域住民、いすれにもメリットがある理想的なエコサービスとして高い評価を得た。

生物多様性、生態系保全に記念したエコプロダクツ

今回特に目立ったのは、生物多様性、生態系保全に記念したエコプロダクツだ。

優秀賞の誘鹿材「ユクル」は、シカが列車と衝突することを回避できるプロダクツだ。駅前に誘き込まれるシカの習性を利用して、駅分を混ぜた固形餌(シカ)を開発し、鉄道の安全運行、個体数の適性管理にも寄与できる。

翌年度の誘鹿材「ユクル」は、木村を削って鉄筋コンクリート造の建築物の耐震補強を行う技術である。集成材を用いた筋交い技術と、木材パネルを用いた耐震壁によって行われる耐震補強工事は、従来問題になっていた騒音や振動も軽減し、軽量であるため搬入搬出も容易になっている。使用されている木村は倒木材を利用しており、日本の森林の適正管理にも寄与できる技術である。

環境大臣賞を受賞したのは、ヤマト運輸の路線バスを活用した宅急便輸送による「客貨混載」。地方の路線バスは、人口減少、高齢化などによって経営が苦しくなっている。しかし少少な公共交通手段であり、路線廃止

特集

審査委員長特別賞(奨励賞)

名称

植物の特性を利用した防草技術製品

会社名・事業所名

全国防草ブロック工業会、防草研究会

出品者 アピール

昔から車道や歩道部の目地部の雑草対策には、人力による除草作業、防草製品等様々な対策が実施されてきたが、十分な防草効果、費用対効果の面でも常に課題となっている。防草ブロック・エレファンテレンは、植物が持つ成長メカニズム、属性(屈光性と屈地性)に着目することで、何も使用する事無く植物が自ら成長を抑制する防草技術をもつ次世代型の環境製品として、新たな道路インフラデザインとしても道路利用者や道路維持管理者にとって理想的な道路二次製品となり、社会に対しても大きな経済効果とCO₂削減を実現できる。

評価

鉄鋼二次製品において、その舗装材(コンクリートやアスファルト)との接触面から雑草が繁茂することが、維持管理上および交通安全上の課題となっているが、その接触面にN型の溝を設けることで、隙間に進入あるいは舗装材下部の土壤に紛

れていた植物の成長を、屈光性や屈地性と反する成長運動に導くことで枯れさせるものである。雑草の繁殖を抑え、草刈りが不要となるため維持経費の節減に繋がり、また除草剤などの使用が不要となるため環境に優しい製品となっている。

全国防草ブロック工業会